

# 校名：山梨大学教育学部附属中学校

所在地：〒400-0005 甲府市北新1-4-2 電話番号：055-220-8310

記載日：平成28年5月8日 記載者：五味哲彦 記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について

### 本校の性格と任務

本校は、教育基本法及び学校教育法第45条に基づいて、中等普通教育を推進するとともに、国立大学法人の附属学校に関する制令による山梨大学教育学部の附属学校として、次の各項を特別の任務とする。

- 1 教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験・実証に寄与する。
- 2 教育人間科学部の教育実習計画に基づき、教育実習生の授業観察、教育実習の実施及び指導に当たる。
- 3 本校の教育研究の成果を広く公開し、また、公立学校の研究や現職教育に協力して、県下の中学校教育の推進に寄与する。

### 学校教育目標

- 学ぶことに誠実な生徒
- 健康で情操豊かな生徒
- 自らの可能性に積極的に挑戦する生徒
- 互いの良さを認める生徒

## 貴校の卒業生の活躍状況について

- ① 追跡調査をしていない。
- ② 高校の進学状況は把握している。

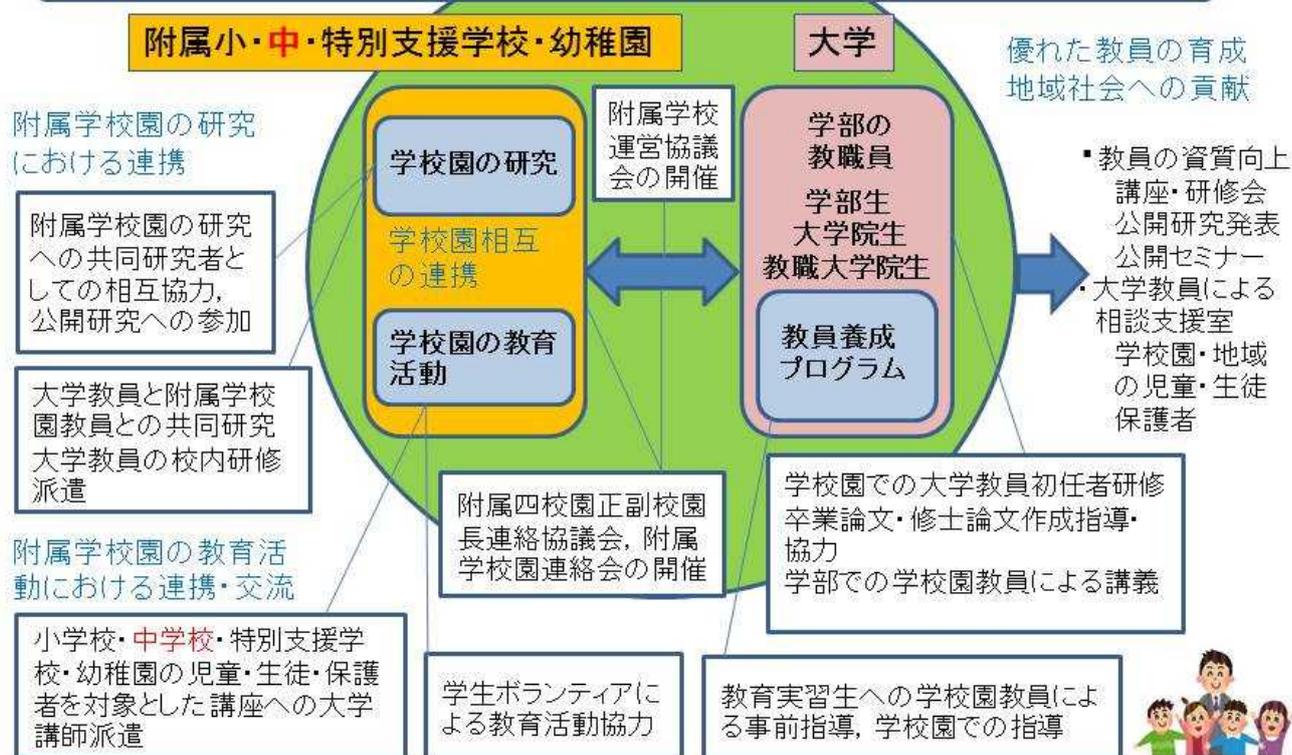
## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- ① 追跡調査をしていない。
- ② 県内各地域の公立小中学校の研究のリーダーとして、各校研究主任として活躍したり、県内各地域教科研究会の事務局担当として教育研究を推進したり、山梨県教育委員会指導主事や山梨県教育センター研修主事として県内教育研究の推進役として活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

### 山梨大学教育学部附属学校園と大学との連携した特色のある取組

研究や教育活動における学校園相互の連携や大学と学校園との連携協力によって、学校園の教育活動の充実を図るとともに、優れた教員の育成、地域社会への貢献に資する。



#### ○附属学校園の連携

教育現場が抱える諸課題にこたえていく視点から、大学・学部と附属学校園との関係強化を通して、「地域の指導的モデル校としての機能を充実」させるとともに、「現代的課題に対する地域のモデル校としての取り組みを公開する」ことを目標に実践研究活動に取り組んでいる。特に、附属学校園の教育・研究活動に対する大学と附属学校との連携・協力関係の点で前進が見られた。両者の関係を強化するため、附属学校運営協議会ならびに附属学校園企画運営委員会等で調整を図り、教育・研究の両面で連携・協力の強化を図っている。

#### ○教育課題に対する取り組み

学校現場が抱える教育課題に対して、附属中学校では、「『深く考える』授業の創造」という研究主題を掲げて、研究に取り組んできた。子どもたちが主体的で創造的な学びを創り出す課題に、それぞれの校種が相互に協力し合いながら研究に取り組んできたわけだが、そうした研究の成果は公開研究会で、積極的に地域に公開・発信している。附属中学校の公開研究会には、過去6年間で延べ1756名参加（平均参加人数293名）であり、平成27年度は中等教育研究会の他、11月に子ども科学教育研究全国大会を開催し、全国から193名の参加があった。

○附属学校園相互の連携を強化する取り組み

附属学校園相互の連携・協力を強化するため、以下の内容で取り組みを実施してきた。

①附属学校園正副校園長連絡協議会、学校園連絡会の年4回の開催

②附属学校園公開研究会への相互協力

③附属学校園の交流活動と学校園の連携

中学校特別支援学校の交流活動（2回）

幼稚園中学校の交流活動（4回）

幼小中合同引き渡し訓練の実施（1回）

小学校外国語活動への中学校生徒、教員、AETの参加交流（4回）

○附属学校園と大学との研究面での連携

①附属学校園の研究に共同研究者として参加 附属中学校へ大学教員16名参加  
公開研究会に共同研究者として大学教員が参加し、事前・事後研究を共同して展開した。

②大学教員と附属学校園教員との共同研究 附属中学校教諭1名  
附属教育実践総合センター研究紀要に共同研究の成果を公表した。

○附属学校園の教育活動における大学との連携・交流

附属中学校の児童・生徒・保護者を対象に実施した講座の講師として大学教員が協力・連携

附属中学校生徒・保護者への特別講義「若桐講座」の開催

（H22年から6年間継続実施、H27年度：11講座開設、参加者数498名）

<効果>

大学教員の専門的な講座は、生徒だけではなく、保護者にとっても知的な刺激となり、学びへの意欲へとつながっている。教育学部のみならず、工学部、生命環境学部、医学部からも講師を招き、全学的な連携へと広がってきている。

○質の高い教員を養成するための連携・協力

大学の教員養成プログラムにおける連携

①教育実習生に対する附属学校園教員による事前指導

大学における事前指導、各校園ごとの事前指導、学年や教科ごとの事前指導と徐々に指導内容について具体性を増すことにより、学生が事前の準備がしやすいよう工夫した指導を行っている。

②附属中学校での教育実習指導

実習録の検討を行い、実習生にとって学びやすく、教員志望への意欲がより高まるような工夫をしてきた。

③附属中学校教員による教育実習生に対する指導案作成のための講座開催

実習前に現場の教員の指導のもと、実際に指導案を書き、模擬授業を行うことを通して学生同士で学びあうことによって、実践力をより高めている。

○地域の教員の資質向上を図るための講座・研修会の実施  
地域における研修会や学習会の実施や講師としての参加  
山梨県総合教育センター講師 附属中学校教諭2名

### 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

本校は、教育現場が抱える諸課題に伝えていく視点から、大学・学部と附属学校園との関係強化を通して、「地域の指導的モデル校としての機能を充実」させるとともに、「現代的課題に対する地域のモデル校としての取り組みを公開する」ことを目標に実践研究活動に取り組んでいる。

### 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

附属学校園としての利点を生かし、学校園の連携や大学との連携を行い、よりよい教育活動が展開されている。中学校家庭科の授業における幼稚園との交流活動、中学校生徒と特別支援学校生徒との交流活動、小学校との外国語活動（中学校は英語授業）での交流活動、大学四学部（教育学部、工学部、生命環境学部、医学部）教員による特別講座への生徒・保護者参加、大学学部生や大学院生による教育ボランティアによる参加協力など豊かな教育活動の実践につなげている。

本校は、教員養成の学部の附属学校としての地域への貢献の在り方を探り、ニーズに伝えていくことが必要とされている。質の高い教員を養成するための連携・協力については、大学における事前指導、各校園ごとの事前指導、学年や教科ごとの事前指導と徐々に指導内容について具体性を増すことにより、学生が事前の準備がしやすいよう工夫した指導を行ってきている。

教育実習指導では、実習録の検討を行い、実習生にとって学びやすく、教員志望への意欲がより高まるような工夫をしており、附属中学校教員による教育実習生に対する指導案作成のための講座を開催している。

附属中学校では、公立の中学校からの割愛者がほぼ9割を占め、本校から転出した後、県教育委員会の指導主事や公立中学校の研究主任、地域の教科研究会の事務局担当として研究の推進役として活躍しており、附属中学校の存在意義は大きい。それ故に適材適所の人事配置が課題となっている。附属学校の使命・役割を果たす意欲のある教諭の配置を、今後も県教委に働きかけていく必要がある。